

村井美樹さん

ローカル鉄道の旅が大好き! という“ソフトな乗り鉄”の村井美樹さんに、
地方民鉄の旅の魅力を語っていただきました。

ちょっとだけ非日常が味わえる 地方ローカル鉄道の旅

コロナ禍に負けなくて
がんばれ地方民鉄!



——鉄道が好きになったきっかけはありますか?

そもそもの原点を考えると、高校時代の電車通学だったのかなと思います。大阪の四條畷にある高校に通っていたんですが、嫌なことがあると自宅とは反対方向の電車に乗って、車窓からぼんやり景色を眺めていました。だんだんと田舎の景色に変わり、窓から夕陽を眺めていると心がすーっと癒やされるんです。

大学生になってからは鉄道でいろいろなところを旅しましたが、あくまで目的地に行く手段として利用していただけで、鉄道そのものにはまっていたというわけではありませんでした。

「鉄道好き」を意識したのはこの仕事を始めてから。「新・鉄子の旅」(注)の取材で、全国全駅下車を達成されているトラベルライター横見浩彦さんに連れられて、1日に3本しか電車がいないような秘境駅に行ったり、真夏の久留里線を全駅下車したり。たった5分乗るために、1時間も列車を待ったりするんですよ。「なんのためにこんな旅をするの?」って、心が折れそうになりました(笑)でも、なにもなくて退屈だろうと思っていた駅

SLは見るだけで
熱いものが
こみ上げてきます!



大井川鐵道

のホームにいます、それまで気づかなかった虫の音が聞こえてきたり、少しずつ日が陰ってきてホームから見る風景が変わっていきたりして、ゆっくりと流れる時間を過ごすのもいいなって思えるようになったんです。頭を空っぽにして次の列車が来るまでぼーっとしている時間は、都会の喧騒のなかにいると味わえない感覚でした。そういう経験を重ねていくうちに、いつのまにかローカル鉄道の旅にはまっていたんだと思います。

思い返してみると、高校時代もちょっとした逃避行気分を味わうために、郊外まで電車に揺られていたんですね。いつもと同じ路線だけど、ちょっと遠くに行くだけで非日常の世界になる。鉄道は毎日の日常のなかにあるものだけど、その続きにある非日常の世界に足を踏み入れることができるというか、異空間に放り込まれるような感覚が味わえる。地方民鉄にはそんな魅力があると思います。

——どんな風景、どんな列車に心惹かれますか?

私はずっと街暮らしで、京都に生まれ、その後大阪に引っ越し、今は東京で暮らしています。だからなのかもしれませんが、いわゆる田舎の風景に憧れがあります。田舎暮らしをしたことはないけど、車窓からのどかな田舎の風景を見ると懐かしいと感じるんです。

田んぼの風景ひとつとっても四季によって印象が違いますよね。春だったら水を張った田んぼが水鏡になって、そこに空や山が映し出され、列車が水の上を滑るように走っていく。夏は

・「新・鉄子の旅」は2009年7月号より「月刊IKKI」に連載された鉄道旅ノンフィクション漫画。村井さんは旅のメンバーとしてレギュラー出演した。

レトロな車両や木造の駅舎には そこに息づいてきた物語を感じます

青々とした稲と、青空のコントラストが美しい。秋になると稲が黄金色になって、夕陽に照らされてキラキラと輝く。なんてことない風景なのかもしれませんが、季節や時間によってドラマティックに変わっていく様子を車窓から眺めていると、ロードムービーを見ているような感覚になります。

あと、10代の頃から古いものが好きで、歴史も大好きです。鉄道には古いもの、歴史あるものがたくさんありますよね。それこそ戦前から走っていた列車が現役で活躍していたり、木

造駅舎が残っていたり。時代は令和になりましたが鉄道には昭和の記憶が残されているし、大正時代のものとか、もっと古いものも見る事ができる。だからレトロな車両とか古い駅舎も大好きです。傷だらけの木造駅舎の壁とかを見ると「これまでよくがんばってきたね」って愛しくなって、思わず触ってしまいます(笑)

——旅に出るときは下調べをしますか？

本数が少ないローカル線に乗るときは、きちんと時刻表を調べてから行きますが、行き当たりばったりで楽しむこともあります。以前、地元の方に口コミ情報を聞いてそこを訪ねるという旅番組に出演したことがあるのですが、プライベートの旅でもそれをやってみました。ガイドブックには載っていないおいしいラーメン屋さんとかスイーツのお店とか穴場の景色がいい場所とか、思わぬ発見があるのが楽しいです。

お城めぐりとか城下町を訪ねるのも好きですが、鉄道と歴史ってとても親和性があると思うんです。歴史ある街には、やはり長い歴史をもつ鉄道が走っていることが多いので、地元ローカル線の歴史を調べてみたりするのもおもしろいですね。

趣味でこけしを集めているので、こけし工房を訪ねて新しいこけしに出会うのも旅の目的のひとつです。こけしにはまったのも「新・鉄子の旅」で鳴子温泉を訪ねたのがきっかけでした。今では旅に行くときに、必ずこけしをひとつ連



銚子電鉄「大正ロマン電車」

れていきます。東北に行くときは、その地で作られたこけしを里帰りさせたり、そうでないときは「今日は誰を連れて行こうかなあ」とこけし総選挙をして、目が合った子を連れていきます(笑)

鉄道写真に限らず、旅先で風景写真を撮るときによくこけしを入れて撮るんですが、絵的にアクセントになるだけじゃなくて、その時の自分の気持ちとか旅の感動をこけしが代弁してくれるような気がするんですよね。あとから写真に撮ったこけしを見ると、この時はこんなことがあったなあとか、こんな風に思ったなあとか、そのときの感情を思い出すんです。

レトロ風な列車に乗って
タイムスリップした気分!



旅の相方ともいうべき「こけし」。帽子をかぶったモダンなこの子はあつみ温泉の工房で買ったもの

——これまでに乗った地方民鉄で 印象深い路線はありますか？

どの路線も乗ってみると新しい発見があって、すてきな風景が広がっていて選ぶのは難しいですが、自分が好きな古い車両や古い駅舎、美しい景色がすべて揃っているところを考えると大井川鐵道は外せません。まずSLが毎日走っているのがすごい！ 最近の車両は軽量化されてツルンとしたデザインが多い印象ですが、SLは重い鉄の塊がガシャンガシャンと力強く動いている。汽笛の音といい、動いているのを見ていだけで胸が熱くなってワクワクします。木



大井川鐵道(右)、小湊鐵道(左)



地方ローカル線とこけしって
とてもよく合うと思いませんか？

私も出演し、協力させていただきましたが、自虐ネタも含めていつも話題になるような企画や商品を次々と考えていて素晴らしいと思います。

路面電車は街の中心部を走っているので、初めて訪れた街の路面電車に乗って、車窓からどんな街なのか観察するのも好きです。ひろでん(広島電鉄)のように、レトロな車両と最先端の洗練された車両が共存して街なかを走っているのもおもしろいですね。

——これからどんな旅がしてみたいですか？

娘がもう少し大きくなり、イヤイヤ期が落ち着いたら、積極的に鉄道旅に連れ出したいですね。最近、図鑑や絵本などから電車に興味をもち始めたようで先が楽しみです。じつは、妊娠中も大きなお腹で旅に出かけていて、ガタンゴトンという音を胎教代わりに聞かせていました(笑) その効果なのか、電車に乗せているときは一度も泣いたことがないんです。一度、SL

の床とか窓枠とか網棚とか、昭和初期の雰囲気がそのまま残っていて、木や煙の匂いも独特でたまらないですね。SL以外の列車も古いものが多いので、乗っているだけで楽しいです。最近では乗っていないのですが、もうすぐ3歳になる娘がトーマス好きになってきているので、娘を連れてトーマス号に乗りに行きたいですね。

大井川鐵道は観光路線の代表という感じが、地元の方たちの足になっているローカル線も、いろいろと工夫している路線が多く、乗って応援したくなります。

津軽鐵道は夏に行ったことがあるんですが、やはり冬のストーブ列車に乗って雪景色を見ながらスルメを焼いてみたいし、ばたでん(一畑電車)で企画しているデハニ50形の体験運転も一度挑戦してみたいですね。銚子電鉄は以前「電車を止めるな！」という映画を製作して、

村井美樹さんの旅の必需品



手ぬぐい

こけしとともに旅に欠かせない手ぬぐい。食事のときはひざ掛けに、車内のエアコンが効きすぎていて肌寒いときの羽織に、ときには首に巻いて日除けにしたり、なにかをちょっと包むのに使ったりと、じつに万能！ 旅先でお気に入りのご当地手ぬぐいを見つけてコレクションに加えるのも楽しみのひとつ。

やわらかい感性をもつ子供との旅は 驚きや発見がいっぱい！

の音にびっくりして泣いてしまったんですが、車内に乗り込んだらピタッと泣き止んで。その後もよほど楽しかったのか、「シュポポ、シュポポ！」とずっと汽笛の音を真似していました。

ただ、初めての体験というのを特別なものにしてほしいので、図鑑などは見せても、動画をなるべく見せないようにしています。小さい子供って大人が気にもかけないようなことに気づいたり感動したりしますよね。そうした、やわらかい感性を大事にして、初めての旅の体験は自分の五感をフルに使って体感してほしいなと思います。

自分にとっては当たり前の風景も、子供の目に映るものはとても新鮮で、それによって私自身も新たな感動や発見をすることがあります。もう一度生まれ直すような気分になれるので、娘といっしょに鉄道で旅をする日がくるのが楽しみです。

——地方民鉄各社、 読者の方にメッセージを。

地方民鉄はコロナ禍で苦境に立たされているところが多いと思います。でも、コロナが落ち着いたら必ず乗りに行くので、どうかそれまでがんばっていてほしい！と心から思います。鉄道は単なる乗り物ではなくて、その地の歴史であり文化です。地域の方の大切な足で、人と人との交流の場でもありますから、なくさないように踏ん張ってほしいし、私自身もなにか協力でき

ることがないか考えているところです。

鉄道好きのみなさんも、自粛疲れで早く旅に出たくてしかたないと思います。この状況が落ち着いたら、たくさん旅をして、たくさん鉄道に乗って、おいしいものを食べて、地方民鉄の旅を満喫しましょう！



村井美樹 Murai Miki

女優。鉄道、旅、歴史、写真、こけしなど多彩な趣味を生かし、知性派タレントとしてクイズ番組「Qさま」や旅番組などでも活躍。漢検1級、世界遺産検定2級、美術検定2級、大江戸検定3級など多様な資格をもつ。自称「ソフテツ」(ソフトな鉄オタ)としてテレビ番組「鉄オタ選手権」、「ローカル路線バスVS鉄道 乗り継ぎ対決旅」などに出演。プライベートでは一女の母。